

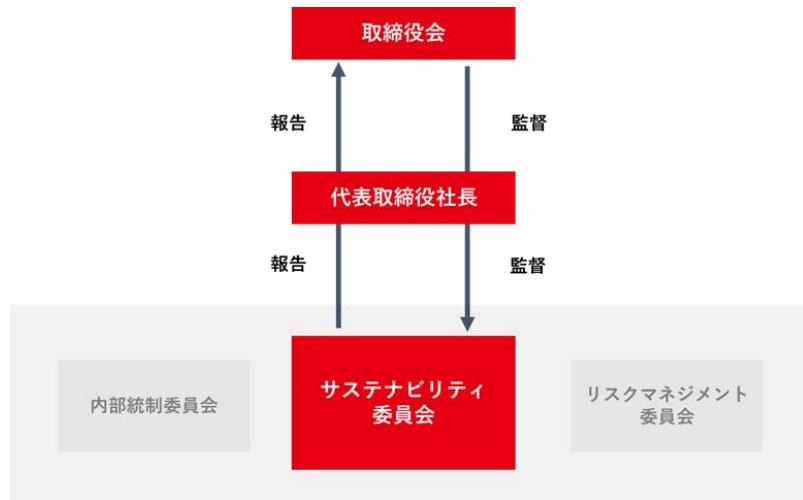
【サステナビリティに関する考え方及び取組】（2025年3月期有価証券報告書より抜粋）

当社グループのサステナビリティに関する考え方及び取組は、次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) ガバナンス

当社では、サステナビリティ課題への対応は主に2023年5月に設置されたサステナビリティ委員会が担います。サステナビリティ委員会は代表取締役社長を委員長として原則として四半期に1回開催し、気候変動やサプライチェーン上の人権保護などサステナビリティに関連する課題の特定及び対応策についての議論を行います。また、審議内容を原則年2回取締役会に答申します。取締役会では対応方針が決議され、サステナビリティ委員会を通じて進捗管理や社内啓蒙が実施されます。



会議体	役割
取締役会	当社の経営意思決定機関であり、原則月1回開催。代表取締役社長が議長を務める。気候変動リスクや人権対応等のサステナビリティ課題についてサステナビリティ委員会から報告を受け、対応策を決議する役割を担う。
サステナビリティ委員会	2023年に新設された、サステナビリティ課題の特定、対応策の審議・推進、進捗管理を担う組織。 代表取締役社長が委員長を務め、原則年2回取締役会へ審議内容を報告・上程し、取締役会の決議に応じて活動を行う。
リスクマネジメント委員会	代表取締役社長が管轄する組織。当社の事業に関わるすべてのリスクを管理する。 サステナビリティ課題においては、気候変動関連リスクを他のリスクと比較して相対的に評価する役割を担う。

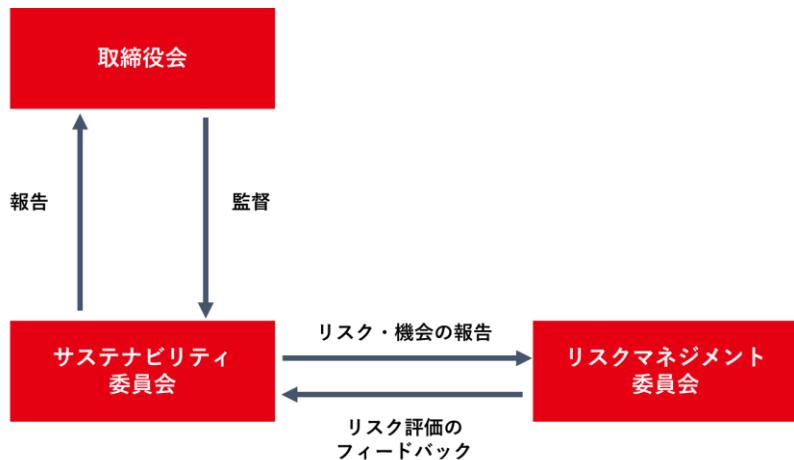
2024年度は2回のサステナビリティ委員会を開催し、主にマテリアリティの特定に関する内容について審議を行いました。

<当社グループのサステナビリティに関する主な議論>

サステナビリティ委員会	2024年11月 マテリアリティの特定について
	2025年3月 マテリアリティ特定について

(2) リスク管理

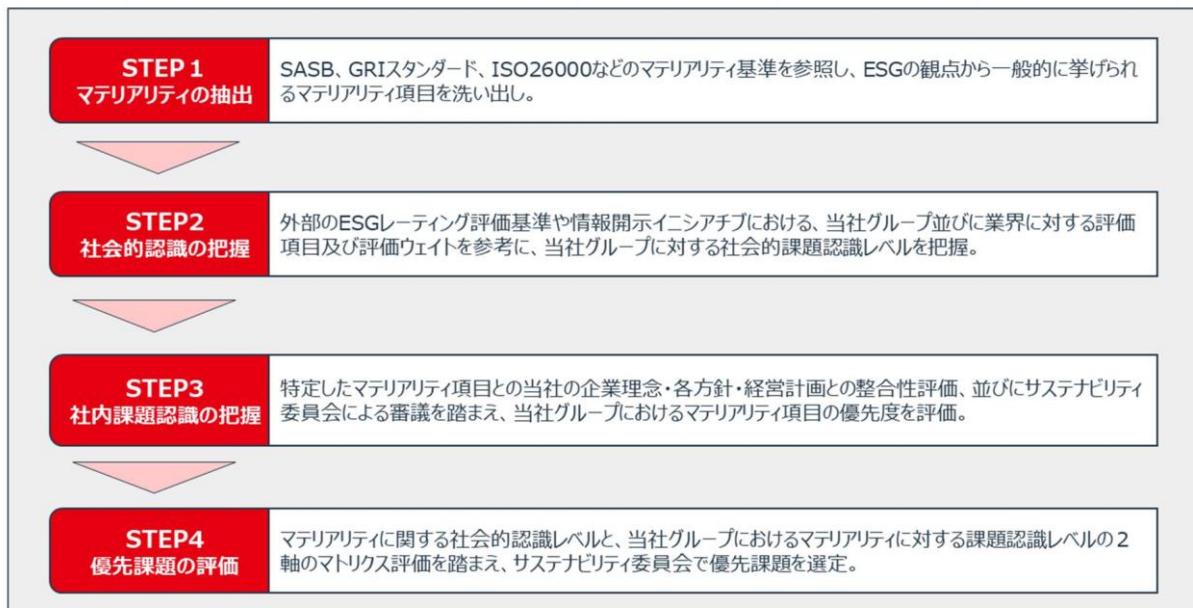
当社グループでは、気候変動をはじめとするサステナビリティ課題への対応は重要な経営課題の一つであると考え、全社的なリスク管理体制を構築しています。リスク・機会の特定はサステナビリティ委員会が担います。サステナビリティ委員会は代表取締役社長、管理本部長、レッグ事業本部長、インナー事業本部長、開発本部長、生産本部長、経営企画部長、総務部長、生産統括部長、生販計画部長、経理部長で構成されており、各部門の報告に基づいた審議を行っています。また、気候変動関連リスク以外のリスク・機会を踏まえた相対的な評価（優先度の判定）はリスクマネジメント委員会が行います。なお、サステナビリティ委員会、リスクマネジメント委員会はともに社長が管轄しています。

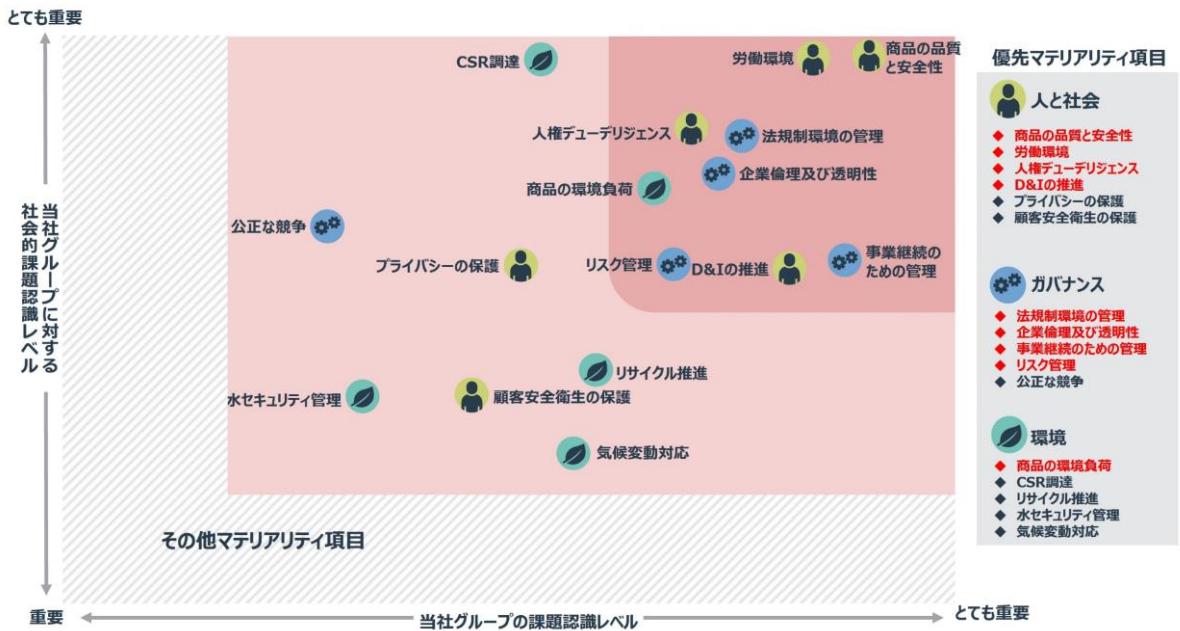


(3) 当社グループにおけるマテリアリティについて

①マテリアリティの特定プロセス

当社グループは、環境・社会・ガバナンス（ESG）が事業に与える影響や関わりの大きさを分析し、中長期的な企業価値の向上と持続可能性の確保に資するマテリアリティ（重要課題）を特定しています。これにあたり、以下のプロセスを通じて、優先的に取り組むべき課題を明確にしています。





②主要マテリアリティ項目一覧

当社グループの最主要マテリアリティ項目は、自社の事業運営において特に重要であると同時に、社会的なニーズも高い項目です。これらの課題に対して積極的に取り組みを進めるとともに、今後も優先的に対応を検討してまいります。

マテリアリティ項目		説明	取り組み	SDGsへの関与
人・社会	商品の環境負荷	環境負荷低減のために、製品に使用する原料から、販売時のパッケージなど、あらゆる場面で環境に配慮したソリューションの導入に取り組んでいます。	パッケージFSC認証紙 LIMEXショッピングバッグ 環境にやさしい原料 リサイクルポリエチレン 黒原着糸	
	商品の品質と安全性	当社の商品は人の肌に直接触れるものであり、品質と安全性を保障するために、品質の管理を最優先事項としています。	ISO9001の取得	
	労働環境	全従業員が働きやすい環境を実現するために、フレックススタイル制度やリモートワーク制度の導入を進め、ライフスタイルに応じた働き方を支援しています。	フレックススタイル制度導入、リモートワークの推進 中核人材の多様性充足	
	人権デューデリジェンス	サプライチェーンに関わるあらゆる人の人権を尊重するために、人権方針を規定しています。	人権方針の策定	
ガバナンス	D&I推進	多様な人が活躍できる職場づくりのために、D&Iの実現に向けた施策を実施しています。	取締役会の多様性の確保の観点から女性役員を増員	
	事業継続のための管理	持続可能な財務基盤の確立のため、「付加価値の最大化」、「コスト構造改革」、「資本の効率化」、「組織改革」に取り組んでいます。	経営計画の見直し マテリアリティ評価を通した課題整理	
	企業倫理及び透明性	すべてのステークホルダーとの信頼の構築のため、事業活動の透明性を向上させるべく、経営計画や方針等の情報開示を強化しています。	情報開示への対応	
	法規制環境の管理	事業運営に関わる全ての法規制に適切に対応するために、継続的な管理体制を整えています。	製品品質や環境関連の法的規制事項を遵守 「ILOや国連ビジネスと人権に関する指導原則」の遵守	
	リスク管理	事業運営に影響を及ぼす可能性のあるリスクを的確に把握し、対応できるよう、継続的なリスク管理体制を構築しています。	リスクマネジメント委員会の設置	

(4) 気候変動への対応

①戦略

当社グループは、日本政府が掲げている温室効果ガス削減目標に沿ったサステナビリティの実現を目指しています。そのため、政府が達成年度に設定している2030年と2050年を基準としてリスク・機会の特定を行いました。リスク・機会の特定にあたっては、TCFD提言に基づき、1.5/2°Cシナリオと4°Cシナリオという複数のシナリオを用いました。複数シナリオの利用により、各戦略の将来にわたる柔軟性を確保しております。

分類	1.5/2°Cシナリオ	4°Cシナリオ
考察の対象	<ul style="list-style-type: none"> Net-Zero Emissions by 2050 scenario (NZE) <ul style="list-style-type: none"> Announced Pledges Scenario (APS) 	<ul style="list-style-type: none"> Stated Policy Scenario (STEPS)
概要	<p>21世紀末における世界の平均気温が、産業革命以前と比べて1.5/2°Cの上昇に抑制されるシナリオ。エネルギー転換、省エネルギー化が進み、2050年前後のカーボンニュートラル達成が予想される。規制/政策による課税や事業停止、環境性能が高い製品の需要増加などがリスク/機会要因となる。</p>	<p>21世紀末における世界の平均気温が、産業革命以前と比べて4°C上昇するシナリオ。現在の温室効果ガス排出水準が保たれ、気候変動が進行する。社会的な変化は小さいが、物理的な影響が顕著となり、平均気温の上昇による労働効率の悪化や異常気象の激甚化による操業停止などがリスク/機会要因となる。</p>

当社グループはまず、1.5/2°Cシナリオにおいて影響が大きい移行リスクについて特定しました。移行リスクでは、主に、炭素税導入をはじめとする政策・規制によるもの、原材料高騰等に関するものが特定されました。これらのリスクに対し、当社グループは、中国の新工場における再エネ電力導入計画の進行等、使用エネルギーの見直しを行っています。また、中国の新工場では節水型の設備を導入し、2025年度までに水使用量を13,870t（2022年度対比5.9%）削減する予定であり、使用する原料についても水質汚染の少ないものを導入することを検討しています。さらに、輸送時の積載効率改善によって輸送コスト及び使用する燃料の削減を引き続き実施しています。

また、4°Cシナリオにおいて影響が大きい物理リスクでは、異常気象の激甚化や干ばつ、平均気温上昇を背景として、生産拠点の操業停止、綿花の生育不良、季節性製品需要の変化が特定されました。これらのリスクに対し、当社グループは、現状中国への一極集中が見られる生産拠点を国内外の協力工場に分散させるといったBCP対応を進めています。更に今後は調達ソースの多様化や、サプライヤー選定基準に環境への取組みを加えることにより、事業継続力を高めていくことを検討しております。当社グループは、リスク特定で用いた枠組みのもと、機会の特定も行いました。脱炭素社会への移行に伴う機会としては、環境配慮型製品の需要増加やESG投資による資金調達コストの削減等が特定されました。当社グループは現在、FSC認証紙の使用、商品パッケージやショッピングバッグの脱プラスチック推進、再生素材の導入、リサイクル活動の実施、EC販売における包装の簡素化、従来品よりも耐久性が高い商品の開発等、調達から製品の販売に至るまで、様々な環境対策を行っています。これらの取組みを継続、拡大していくことと並行して積極的な情報開示を行うことで、消費者、投資家のニーズをとらえた製品・サービスの提供が可能となると考えております。

気候変動の物理的な影響が顕在化することに伴い生じる機会は、EC販売の需要増加や涼感機能性商品の需要増加が特定されました。EC販売の需要増加については、引き続きEC販売の強化に注力し、自社ECサイトの運営体制強化及び外部ECモールへの出店による販売を行っております。また、涼感機能性商品の需要増加については、当社グループは、暑さに対応した商品の販売を拡大しています。冷感効果を持つ糸や汗のべたつきを軽減する素材を使用した商品、蒸れを軽減する仕様の商品、紫外線対策ができるUVカット機能を搭載した商品等、気温上昇による猛暑・酷暑で需要拡大が見込めるインナーウェア・レッグウェアを製造販売しています。

特定したリスク・機会に対応するため、全社で情報を共有し、環境経営に関する円滑な意思決定及びサステナビリティ推進活動の強化を図ってまいります。

■リスク機会一覧表

リスク項目	種類	2030年における影響				現在の取り組み、対応方針
		リスク内容	時間軸	1.5°C シナリオ	4°C シナリオ	
社会的な変化（移行）に伴う影響	政策・規制	<ul style="list-style-type: none"> ・炭素税 <p>炭素税の導入により、化石燃料、電力の使用による課税が行われ、操業費が増加する。</p>	中期～長期	大	中	<ul style="list-style-type: none"> ・Scope1, Scope2の排出量算定を実施 ・今後はCO2排出量のモニタリングおよび削減策の検討を行う
		<ul style="list-style-type: none"> ・GHG排出規制 <p>GHG排出規制により、高効率機器の導入が必要となるため、設備費が増加する。</p>	中期	中	小	<ul style="list-style-type: none"> ・部門別CO2排出量のモニタリングおよび適切な設備投資の検討 ・CO2排出量削減に取り組んでいる協力工場への生産委託
		<ul style="list-style-type: none"> ・化石燃料使用に関する規制 <p>化石燃料の価格高騰により、商品製造費用や輸送費が増加する。</p>	中期	中	大	<ul style="list-style-type: none"> ・より生産効率が良い設備の導入など、使用設備の見直し検討 ・物流オペレーションの改善によるトラック輸送時積載率の改善及び輸送頻度の改善
	再エネ政策	<ul style="list-style-type: none"> ・再エネ政策 <p>導入コスト、価格が高い再エネの使用割合が増加し、操業費が増加する。</p>	中期～長期	中	小	<ul style="list-style-type: none"> ・社内での原価低減活動推進 ・中国新工場における太陽光パネル設置検討 ・再エネ利用を推進している協力工場への生産委託
市場	評判	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料コストの変化 <p>原油価格の高騰により、ナイロン・ポリウレタン等石油由来繊維の調達費用が増加する。</p>	短期～長期	中	中	<ul style="list-style-type: none"> ・工場内リサイクル含むリサイクル原料の使用 ・適正範囲での販売価格転嫁 ・代替素材の検討
		<ul style="list-style-type: none"> ・顧客の行動変化 <p>環境に配慮した商品を選好する顧客が増加することで、需要に応えられない場合は売上が減少する。</p>	中期～長期	中	小	<ul style="list-style-type: none"> ・オーガニック素材の使用 ・リサイクル原料の使用 ・直営店舗における消費者向けリサイクル活動の実施 ・水質汚染の少ない原料の使用 ・水質汚染の少ない生産設備の導入 ・バイオマス由来原料使用の検討 ・再生素材を使用した商品の開発 ・商品包装資材の削減
	評判	<ul style="list-style-type: none"> ・投資家の評判変化 <p>気候変動に対する取り組みが積極的でないと評価された場合、投資家からの評判が低下し、収益が減少する。</p>	短期～長期	大	中	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営の推進および積極的な情報開示に向けた社内体制の整備
物理的な影響	急性	<ul style="list-style-type: none"> ・異常気象の激甚化 <p>異常気象の激甚化によって営業所や工場、物流が被害を受けることで対応費用が増加する。また、操業が停止し販売機会が減少する。</p> <p>消費者の行動が変化することで需給バランスが変化し、在庫過多や在庫不足が発生することで、在庫への対応費用が増加する。</p>	短期～長期	中	大	<ul style="list-style-type: none"> ・協力工場への生産分散や輸送経路の見直し等を含むBCPの策定
		<ul style="list-style-type: none"> ・干ばつ <p>干ばつの影響で原材料（綿花）の生育状況が悪化し、収量が減少することで価格が高騰。調達費用が増加する。</p>	短期～長期	小	大	<ul style="list-style-type: none"> ・調達ソースの多様化 ・サプライヤーとの関係強化
	慢性	<ul style="list-style-type: none"> ・平均気温上昇 <p>平均気温の上昇によって空調設備にかかる費用が増加する。</p> <p>防寒商品（タイツなど）の需要が減少するため、売上が減少する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均気温上昇（生育条件の悪化） <p>平均気温の上昇によって原材料である綿花の生育状況が悪化し、収量が減少することで価格が高騰するため、調達費用が増加する。</p>	中期～長期	小	中	<ul style="list-style-type: none"> ・空調設備の見直し ・端境期に向けた提案など、季節商材構成比の見直し
			中期～長期	小	中	<ul style="list-style-type: none"> ・調達ソースの多様化検討

機会項目	2030年における影響					現在の取り組み、対応方針
	種類	機会内容	時間軸	1.5/2°C シナリオ	4°C シナリオ	
社会的な変化（移行）に伴う影響	政策・規制	・再エネ政策 再エネ発電を売却することで収益が増加する可能性がある。	中期～長期	小	小	・再エネ設備増設の検討
	市場	・顧客の行動変化 エシカル消費の普及に伴う環境に配慮した商品の需要が増加する。	中期～長期	中	小	・オーガニック素材の使用 ・リサイクル原料の使用 ・商品包装資材の削減 ・耐久性に優れた商品の開発、ローンチ
	評判	・投資家の評判変化 気候変動への取り組みに対して意欲的であると判断された場合、新たな資金調達の可能性及び株価上昇に繋がる。	短期～長期	大	中	・環境経営の推進および積極的な情報開示に向けた社内体制の整備
物理的な影響	急性	・異常気象の激甚化 実店舗の代替としてEC販売の需要が増加し、売上が増加する。	短期～長期	中	中	・EC販売の拡大
	慢性	・平均気温上昇 涼感機能性商品の需要が高まるため、対応商品の売上が増加する。	中期～長期	小	中	・冷感商品集積ブランドの発売等、季節商材構成比の見直し

※補足

- 事業インパクトの項目のうち、時間軸は以下のように設定しています。
短期：0～3年 中期：4～10年(2030年) 長期：11～30年(2050年)
- 事業インパクトの項目のうち、影響度は以下のように設定しています。
大：事業及び財務への影響が大きくなることが想定される
中：事業及び財務への影響がやや大きくなることが想定される
小：事業及び財務への影響が軽微であることが想定される

②指標及び目標

当社グループは2022年度の有価証券報告書における開示まで、環境問題への取組みの重要性を認識しながらも、製品・サービスの環境配慮性能の向上やESG全般への取組みの強化に注力していたことから、温室効果ガス削減の定量的な目標設定及び実績値の算定は行ってませんでした。しかしながら、現在、脱炭素への国際的な合意が強化され、社会的要請が高まっています。当社グループも、事業を通じて社会的な責任を果たすため、また、気候変動関連リスク・機会の精度の高い分析を行うため、今後は自社の活動範囲での排出であるScope 1、2の算定のみでなく、将来的にはサプライチェーン全体が対象であるScope 3の算定も行ってまいります。

今後、日本政府が掲げている温室効果ガス削減目標に沿い、2030年度や2050年度等、具体的な年度設定を行ったうえで中長期的なロードマップを検討してまいります。

Scope	算定対象となる排出	排出量 (t-CO2)	排出量 (t-CO2)	排出量 (t-CO2)
		2022年度	2023年度	2024年度
Scope1 直接排出	事業者自らによる温室効果ガスの排出	2,707	2,656	3,832
Scope2 間接排出	他社から供給された電力、熱、蒸気の使用による排出	25,226	28,395	21,035
Scope1+2 合計		27,934	31,051	24,866

※補足

- 2022年度は中国国内において断続的な電力供給制限が行われたことや、上海市ロックダウン等の影響を受けて工場の稼働率が低下したことにより、一時的にScope 2排出量が減少いたしました。
- 2024年度は新工場への移転に伴う工場稼働率の低下により電力使用量が減少し、一時的にScope2排出量が減少いたしました。また、新工場では蒸気の調達方法を従来の外部購入からボイラーにより発生させる方法に変更したことによって、Scope2の排出量減少とScope1の排出量増加が生じております。

(5) サプライチェーン上の人権

事業活動に関する人権への負の影響を特定、予防、軽減するためにデューデリジェンスを継続的に実施し、適切な情報発信に努めます。2024年度には当社の一次取引先を対象としたデューデリジェンスを試験的に実施しました。今後は対象企業の範囲を拡大し、継続的にデューデリジェンスを実施いたします。

(6) 人的資本に関する取り組み

当社グループは、企業価値向上と市場における競争優位性の確立に向けて、『人財力』の強化に積極的に取り組んでいます。

社員一人ひとりの能力、経験、スキル、モチベーションの向上を促す施策を通じて、チャレンジ精神と自律的な行動を引き出し、新たな価値創出やビジネスモデル実現に資する企業風土改革を推進しています。

①戦略

a. 人事制度・各種規程の整備

2024年度より、教育研修体系およびキャリアパスを再定義し、それに基づく各種研修や自己啓発支援を実施しています。経営人材育成に向けたサクセションシステムの再整備や、公募型研修の導入を通じて、価値創造型人材の育成を推進しています。

また、人材確保に向けては、企業の魅力度を高め、多様な人材の共生を図るとともに、リファラル採用やアルムナイ制度を活用した採用力の強化にも取り組んでいます。

b. キャリアパスを明確にした自律型人材の育成

2024年度に刷新した人事制度は、業績志向を高め、成果に基づく配分を重視する仕組みへと進化させています。同年に導入した「定年延長（65歳）」制度についても、60歳以降の働き方を選択できるコース選択制度へと拡充しています。

また、育児・介護休業に関しても、ワークライフバランスに応じた勤務が可能となる制度整備を進めています。

c. 人的資本可視化指針に資する活動の推進

人的資本経営の観点から、人材育成、組織強化、リスクマネジメントに取り組んでいます。特に、ハラスメント防止に関する全社的な活動を推進するとともに、女性活躍推進や次世代人材育成に向けた行動計画を具現化しています。

さらに、DE&I（ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン）においては、シニア人材、育児・介護、LGBTQ、障がい者への対応強化にも注力しています。

d. 労働環境の整備

2024年度に導入した「フレックスタイム制度」や、新オフィスにおける「フリーアドレス」の活用、「テレワーク」の併用により、柔軟な働き方とワークライフバランスの充実を図り、労働生産性の向上を目指しています。

また、離職率や傷病休職の低減に向けては、心理的安全性を重視した時間外労働の削減や、メンタルヘルス対策を推進しています。

e. パーパス浸透とブランド力向上

クレド刷新や社内表彰制度「ATG賞（明るく・楽しく・元気にチャレンジしま賞）」の実施を通じて、パーパスの浸透と従業員エンゲージメントの向上を図り、企業ブランド力の強化に取り組んでいます。

また、社内プロジェクト「フェムサポ®チーム」によるフェムテック推進活動を通じて、社内外への情報発信も積極的に行ってています。

②指標及び目標

当社グループでは、上記の戦略に基づき、人材の多様性確保および育成、社内環境整備に関する方針に対して、次の指標を用いて進捗を管理しています。

<女性活躍と次世代育成に資する環境整備>

厚生労働省が進める「女性活躍推進法」や「次世代育成支援対策推進法」による「行動計画」のうち、主たる宣言の2025年3月末現在の進捗は次の〔 〕内記載のとおりです。

- | | |
|------------------------------------|--------------------|
| ・2025年度末までに女性の離職率を低減し、平均勤続年数を12年以上 | [2024年度実績 9.7 年] |
| ・2025年度末までに管理職に占める女性労働者の割合を25%以上 | [2025年3月末現在 21.8%] |
| ・2025年度末までに男性の育児休業取得率 50%以上 | [2024年度実績 100 %] |

※補足

主要な事業を営む会社においては、関連する指標のデータ管理とともに、具体的な取組みが行なわれているものの、連結グループに属する全ての会社では行われておらず、連結グループにおける記載が困難であるため、提出会社単体の指標を開示しております。